

自民党の『国鉄再建案』を弾劾する！(下)



82.7.29

No. 1108

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五七六・(公衆)四三二二七二〇七

自民党の「国鉄再建案」の反動性
第一一〇七号より続く)

自民党の「国鉄再建のための方策(案)」の反動性の第一は、①「国鉄再建」を直面する国家経営危機突破のヒナ形とするとか、②「国鉄問題が解決されれば行革は大成功だ、などと自ら位置づけていることである。

このことは、今日の「国鉄問題」が戦後日本帝国主義の発展—成長—ゆきづまりと危機を象徴的に表わしていることを、自民党・支配階級自らが認め、そして、「国鉄再建」を国鉄労働運動解体攻撃に集中することを通して、体制的危機の突破口とせんとしているのである。

自民党の「方策(案)」の反動性の第二は、〇年度32万人体制、六五年度25万人体制実現にむけて、①管理運営権及び職場規律の確立—当局による強権的職場支配権の確立、②徹底した合理化と要員削減、③給与の抑制などを骨子とする「緊急対策11項目」を確実に実行すること、を迫っていることである。そして、これが国鉄再建の最後のチャンスであるとし、この実現不可能なときは「民営・分割」化する、としているのである。

つまり、「民営・分割」を大上段にふりかざして、われわれ国鉄労働者をドゥカツし、「これがいやだったら、おとなしくいうことをきけ」と言っているのである。

そして、このようなムチの政策に加えて、国鉄労働者の反撃を恐れて、国鉄労働者の戦闘性を骨抜きにするアメの政策として、(1)国鉄年金制度の公務員・他公企体との統合による保障、(2)長期債務の棚上げ—別会計化、などをおりこんでいるのである。こうして、自民党の「方策(案)」は、徹頭徹尾「国鉄再建」＝国鉄労働運動解体である、としているのである。すなわち、「国鉄赤字の解消」が目的ではなく、国家体制の危機を突破する「ヒナ形」として「国鉄再建」＝徹底した国鉄労働運動解体を行し、支配階級の意のママとなる国鉄の実現をはからうとしているのである。

第三に、「国鉄当局は、このような反動的な自民党「方策(案)」をそのまま「国鉄当局の基本方針」だとして既に先どり的に実施を強行している」といふことである。

ますます反動性をむき出しにする
動労「本部」革マル反動分子

自労「本部」革マル松崎一派は、國労の労働者がブルトレ問題や現協制度改悪攻撃を焦点に怒りの

反撃に起ち上っている中で、こともあろうにあの右翼・鉄労と一体となって当局に率先協力するという超反動の裏切り方針を打ち出し、実践している。そればかりか、逆に、当局・鉄労と一緒にになって「国労批難・国労攻撃」に全力をあげるというフアシスト的反動の本性をむき出しにしているのだ。何という卑劣！ この、①ブルトレ旅費の一括返上・返済、②現協制度改悪攻撃のうけ入れ、という決定的裏切りこそ、あの反動的「働くこう運動」方針の必然の結果である。

更に許せぬことに、この間、動労「本部」革マルの総責任者＝松崎明は、臨調・自民党のボス連中や国鉄当局の労務担当者たちと、マスコミ記者もあきれほどの、組合指導部にあるまじき、場所・やり方でひんぱんに密会を重ね、このような裏切りと引きかえに、松崎一派のセクト的延命とわが動労千葉への新たな組織破壊攻撃のエスカレートを密約＝取り引きしていたのである。

7月1日、突如として、松崎子飼いの動労東京地本極悪革マル分子＝長谷川と海宝をデータラメな「転勤」をよそおって千葉へ送りこみ、第二の「六・一二」デッヂ上げ、組織破壊策動を強めているのは、そのことの一端の表れなのである。断じて許すな！

政府・自民党・支配階級の軍事大国化・改憲攻撃は、労働戦線の右翼的再編・国鉄労働運動解体・三里塚二期着工＝第二反対同盟づくり策動、等として一層具体的・強権的な攻撃として激化している。敵の攻撃の激化は、敵の強さでは無く弱さの表われだ。軍事大国化・改憲・戦争への道をもって、今日の体制的危機を突破しない限り、支配の側がぶつ倒れるというギリギリの危機なのである。「臨調攻撃」とは、そういう攻撃である。一切の矛盾と犠牲を労働者・人民に押しつけ、「耐乏生活、福祉切り捨て」をもって「軍事費のみ無制限に肥大化」する。この間の権力＝当局＝動労「本部」革マルの一体となつた組織破壊攻撃を一つ一つ粉砕して勝利してしまったわが動労千葉の闘いの質と路線を、今こそ全国に拡大し、国鉄労働者の総決起をかちとる絶好のチャンスがやってきた。

われわれは、第七回定期大会の圧倒的成功にむけ追放・一掃へむけて、闘いぬこうではないか。